

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	2014年11月23日 11月号
----	---------------------	---------------------

## 「見える教会」とは

M. M

毎月1回、長老による「ウェストミンスター大教理問答」に基づく奨励奉仕が続いております。9月にはウ大教理問答の「問61 見える教会とは何であるか」を担当しましたので、これを基に教会とは何かを改めて書きとめることにしました。

主イエスキリストを頭とする教会は1つしかありません。過去、現在、未来を通し、場所にも縛られず、教われる民が一つに集められる教会、使徒信条で「聖なる公同の教会」、「聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会」と告白するところの教会です。

この公同の普遍的教会をウ信条では「見えない教会」と呼びます。これに対して、私たちが毎週集まり礼拝を捧げる教会は、横浜中央教会も含めて「見える教会」と呼ばれるものです。会堂施設だけでなく、教会員の集まりが「見える教会」の実体です。ここでの「見える」とは、世にあつて誰が教会員であるかを知ることができ、また、この教会や教派の会員は何人であるかを数えることができるという意味です。ただし、「見える教会」の全てが「見えない教会」の真の会員とはいえないことは、ウ大教理問答の問61が教えるところです。

「見える教会」の本質は、「真の宗教を告白する全ての者と彼らの子供たちから成る一つの社会である」という点にあります。「真の宗教を告白する」とは、旧約においては「ただ一人の生ける真の神を信じ、十戒に代表される掟を守り、礼拝を捧げること」、新約においては「主イエスキリストを、罪人を罪から噴い出すことのできるただ一人の神として受け入れ、キリストへの服従を公に告白すること」です。この2つには「恵みの契約」と言う点で矛盾や齟齬（そご）はなく、普遍的な公同教会の教会員として同じものであると教えられます。また、見える教会の会員としての印は「洗礼を受けていること」、その特権は「主の晩餐にあずかること（ただし、契約の子供たちは「信仰告白」の後）」です。改革派教会が信者の子供たちに

「幼児洗礼」を施す意味は、[真の宗教を告白する者]としてキリストの贖いの恵みにあずかる者、また、見える教会を構成する会員という点で神さまの目には同じ

とされているからです。これは、人間的な合理主義や自由意思を尊重することより聖書の教えに忠実に従うことを重んずる神中心の信仰から生まれてきたものです。

ここから奨められる大事な教えは、「見える教会」であっても、個々の信者の任意の集まりではなく、神さまに召し集められた「多くの部分（教会員）から構成されるキリストの体（コリント I・12章）」である、ということです。改革派教会の「教会観」の特徴は、「主イエスキリストと私との1対1の関係」だけでなく（これが成り立たないと教会は立ちませんが）、「頭なる主イエスキリストと体の部分である私たち（群れ、集合体）との関係」の両方を重視するところにあります。

私たちが洗礼を受け、あるいは加入によって横浜中央教会の教会員とされていることも、自分の自由意思や合理的な判断によるものではなく、聖霊のお導きによるものです。それゆえ、私たちは「見えない教会」に属する者であることを切に祈り求めつつ、同時に「見える教会」に属する会員として日々の教会生活を送ることに励まなければなりません。

具体的には、いま、横浜中央教会に属する者として主の目の礼拝を守り、イエスキリストの「見える教会」に与えられた特権を教会長のために、契約の子供たちのために、そして教会学校にあつまる子供たちを含む求道の友のためにお届けすることの奉仕に努めることです。たとえ、自分の気持ちがそのような奉仕に向わず、ときには、礼拝を休みたくなるような気分襲われるときでも「この小さな者をお使ください」と祈り求めるべきです。それによって、なぜ自分が改革派教会の会員となっているのかを神さまが教えてくがさることと思います。

「見える教会」に関連するもう一つのお奨めは、改革派教会の「創立宣言」に謳われる教会観を学ぶことです。日本キリスト改革派教会を創立した人々は、キリスト教弾圧の大変困難な時期にあつて、「見える教会」の理想を追い続けました。中でも、上述の「見える教会」については「信仰基準（ウ信条を採用）」と「教会政治（長老政治）」と「善き生活」の3つの要素が大事であると主張します。そして、この3点は一元的なものであり、どれか一つを欠いても「見える教会」として不完全なもので、それを無視して教会合同を進めても成功しがたいと断じたのです。

それは、ウ信条が教えるような「教会」観を持たずに、形だけの合同を目指すことへの警鐘であり、自戒でもあったと思います。私たちには、このことを忘れずに日本キリスト改革派教会という「見える教会」を立て、これを維持し、次世代に継承していく使命が与えられているのです。是非、「創立宣言」を熟読してください。

## 教会と学校が協力できること

M. Y

11月19日、牧師・教会教師との懇談会という事で、C長老とS女学校へ行ってきました。懇談会のテーマ：若い世代を教会に繋げるために～教会と学校が協力できることでした。私たちの教会のCSの礼拝にもS女学校に通っている子ども達が出席しています。この懇談会には、S女学校のJOCに所属している生徒、していない生徒高校三年生～中学一年生まで22名程が参加して、グループディスカッションでした。学校からの宿題で、教会の礼拝に出席する課題が出て一度は行くが継続しない、何度か色々な教会の礼拝に出席し継続していると話が出ましたので、教会に行かないのは？教会に行っているのは？という質問をしました。

そこで、生徒さん達からの生の声をそのまま下記に記載します。

### <行かない理由>

- ・アットホーム過ぎて戸惑う
- ・朝 早いのが無理
- ・近くにない
- ・クラブ活動（練習試合）があると行かない
- ・CSが少人数過ぎて行きにくい
- ・礼拝の説教が難しく長くて解らない
- ・小学科と大人の礼拝しかなくて どちらに出席したら良いかわからない

### <通えている理由>

- ・大人数なので行きやすく楽な感じ
- ・年齢層が高い教会なので安心感がある
- ・同学年が少ないほうが楽 いらなくても大丈夫
- ・讃美と祈りが楽しく感じ はまってしまった
- ・誘われた教会で 自分のことを祈ってくれたのを機会に通い始め 洗礼を受けた

これらが、私が参加したグループの生徒さん達から出た内容です。

どのグループからも共通していた事は、アットホーム過ぎて 温かすぎると距離をとりたくなるという事でした。

そして、捜真女学校の教師のクリスチャン率も下がっていて、週に何回か行われる合同礼拝や祈祷会などでの説教においても教師にまわって来る頻度も増えてきている、できる奉なら教会の牧師をお招きして説教を子ども達にして頂けたら嬉しいとも宗教主任の先生が話していました。生徒さん達も、色々な教会の牧師が来て下さること望んでいました。

このような事から最後は、「牧師が学校へ」という流れで、和やかな雰囲気終了しました。